

平成31年3月22日

平成30年度 第2回「学校関係者評価委員会」最終報告

1 概要

(1) 日時 3月8日(金) 15時30分～17時00分

(2) 場所 広島城北中・高等学校 第2会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員	三田戸坂城山小学校校長 丹戸坂中学校校長(欠席) 佐伯同窓会長 藤井PTA会長
教職員	岩本校長 藤田副校長 中川教頭 角保総務部長 大下教務部長 村上進路指導部長 黒瀬(真)生徒部長代理 堀江入試広報部長 ブランチ国際部長

2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介後、各部から学校経営計画に沿って平成30年度の実践内容について、中間報告における指摘事項に関する進捗状況について報告する。

(1) 生徒部より

- 校内における右側通行の効果や挨拶のできる集団について
- 中・高合同の体育祭に向けての検討事項及び課題等について
- 放課後の自習教室の活用について
- 地域貢献を目標とするボランティア活動の内容について

(2) 進路指導部より

- 大学から先生をお招きして専門の講義をいただく「大学出張生講義」の実施内容及び参加した生徒の感想等について
 - 東京大学、広島大学、早稲田大学のオープンキャンパスの参加状況及びそのことが、いかに生徒の進路意識の涵養に繋がっているか。
- (3) 入試広報部より
- 新たな取組である定期的に発行する刊行物について
 - 各種説明会の参加状況及び内容について
 - 中学校・塾との連携状況について
 - 新6年生を対象とした「チャレンジテスト」の実施について
- (4) 国際部より
- 海外短期研修・海外修学旅行など、グランドデザインによる18プランの進捗状況について
 - グローバル・キャリア・プログラムにおける事前学習の状況について
 - 国際ニュースレターの発行状況について
 - 海外短期語学研修の参加状況について
- (5) 総務部より
- 相談体制の確立に向けた取組について
 - カウンセラーと学年会独自の連携に関わる課題について
 - 帰属意識を高める学校行事の在り方について
 - ホームページの効果的な活用について
- (6) 教務部より
- 「評価」にポイントを置いたシラバス作成の進捗状況について
 - 標準単位数に応じた年間標準授業時数の確保について
 - 「授業改善」「評価に関する研修」の進捗状況について
 - 教育改革を念頭においた校内研修会の内容及び状況について
- 3 評価委員からの意見及び助言
- 事前に郵送された資料と実際の数字が異なっているので注意願いたい。
 - オーストラリアへの派遣人数がなぜ減少しているのか。
 - 中学生の段階で海外研修に参加できる制度は非常に意義深いと思う。
 - 国際部で発行されている「ニュースレター」を、保護者のみならず外部の人も見れる工夫をすることで、大きなアピールに繋がると思う。

- 海外研修に参加する前と後で、どのように生徒の意識や態度に変容があったのか知りたい。
- 振り返り学習をさせることで、どのような力が付いたのかを明確にすることで、生徒の伸張の度合いを測ることができ、それが外部へのアピールにも繋がると思う。アンケートなどを工夫されたらどうか。
- 指導が成されていることが大きいな要素だとは思いますが、城北の生徒はとてもよく挨拶してくれて気持ちが良い。
- 生徒会レベルで先進的な学校と交流するとあるが、どのような取り組みをされているのか紹介願いたい。
- 「自習室」は何とかスタートできないのだろうか。先生方が付いて勉強するというよりは、生徒の自治として活動できる環境を是非整えてやって欲しい。下校するまでにまとまって勉強できる環境があることは非常に望ましいことだと思う。強く要望したい。自学自習は生徒が創り上げていくものだと思う。進学校ほどTVなどで見ると、自習室で勉強している姿を見ることが多い。強制ではなく伝統的に育てていくものだと思う。
- ホストファミリーの受入は語学研修に行った生徒の家で受けることになっているのか。
- ロイロノートとは何か？
- 高校生になると休みがちな生徒がいるとあるが、いわゆる不登校という生徒は何人程度いるのか。
- 午後から登校するようなケースもあるということだが、そんな時間に登校して周りの大人たちから何か言われぬのか不思議である。
- 生徒の意識の中に「遅刻」という意識がなぜ生まれないのかと思う。
- 公立中学校も不登校は少なからずあり、小学校でも大きな課題としてとらえている。
- タブレットを導入して期待通りだった場合と、困っているというようなケースがあれば紹介してもらいたい。
- 早慶上理、関関同立の数字が昨年度よりも減っているのではないか。
- 新小学6年生対象の模擬試験をやられるようだが、そのような場も広報活動の場として活用すべきではないか。
- 昨年中学校入試の説明会に保護者として参加したが、とても分かりやす

く好印象であった。

- 同窓会が発行している「しろやま」などのリーフレットも活用して、その中に情宣活動になるようなものを入れることは可能である。
- 基礎学力のデータで高校3年生の学習時間が増えているのは、積み上げの成果だと評価したい。
- 文化祭のポスターが非常にきれいで、小学校でも子どもたちの間で話題になっていた。
- 鉄道研究部が話題になっているが、今少し情宣活動に参加したらどうだろうか。
- 同窓会の人間として、少子化、公立の中高一貫校の設立の中で、生徒数が減少しているのは非常に気になっている。
- 今のままでは安定した生徒数は確保できない。どのような手立てを考えているのか。
- 城北に特色がないと評価されているのではないのか、どういう手を打つか、通信制を立ち上げるとか様々な手段を吸い上げて対応していただきたい。
- 面倒見の良い学校、先生方はよくやっておられると思う。
- 男子校にいかせたいと思えるようなものがないと、世間の人には理解しない。
- 私学ならではの施策を打ち出すべきである。私学だからできる、ということ思い切って進めて欲しい。

1 グローバル・マインドを育み、世界の動向や日本の現状を客観的に観察し、21世紀の課題解決に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に特別活動に参加する。 ホストファミリーの受け入れや異文化理解を促進し、積極的に特別活動に参加する。	2019年度における海外短期プログラム実施に関わる交流高との費用負担・条件を整備する。	A	豪州派遣では参加70%に留まった。複数校引率者の経費負担について参加者から了承が得られた。啓聖との経費分担は微調整の段階である。	国際部
	グローバル・キャリア・プログラムの内容を改善し、生徒の興味・関心を喚起する。	A	事前学習計画が策定できた。研修体験の記録作成指導や参加証明書の様式検討等では課題も残るが、研修内容のアップデートできた。	
	国際ニュースレターを活用、各国の文化を紹介して、ホストファミリーの公募を推進する。	A	国際ニュースレターを4回/4発行し、PTA新聞にも2回分を掲載した。どれほど情報が伝わっているか待りたい。	
基本的な生活習慣を確立する。	校舎内での右側通行を徹底するとともに授業や登下校時のマナー意識を育てる。	C	今年度から推進してきた。意識の高まりが感じとれるも定着には至っていない。来年度も引き続き指導を行い、登下校のマナーアップに繋げたい。	生徒部
	個人面談やLHRなどを通じて望ましい生活習慣の確立を図る。	B	定期的な個人面談を通じて生徒の状況把握に努めた。手帳やClassiを活用、家庭学習時間の把握、より良い生活習慣の確立を進めた。確立できていない生徒も少なからずおり、指導を継続したい。	総務部 (学年会)
	LHR・道徳・個人面談・三者懇談等で相談体制を確立する。	B	担任を中心に定期的な面談を実施、生徒個々の状況把握で関係づくりが進んだ。学年会でも生徒の情報を共有、全員による相談体制が整った。	
	様々な課題を抱える生徒に支援について学年会とカウンセラーがミーティングを学期毎に実施。	C	担任とカウンセラーの相談はできているが、学年会としてのミーティングは持っていない。いじめ防止委員会と学年会で情報は共有している。	
1生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指すとともに、城北健男児の自覚を持ち、他者を思いやる心を育てる。	帰属意識を高める行事を具体化する。	B	各行事は目的、内容等を各担当がその趣旨を踏まえて実施、現状でよいと思われる。災害により中1林間学校、中2スピリットウォークが実施に至らなかった。	総務部
	中高合同運動会の実施について条件整備を進める。	D	引き続き検討課題である。	生徒部
生徒の興味・関心を世界の動向に向けさせ、積極的に異文化交流に関する課外活動に参加する態度を育てる。	海外短期研修・海外修学旅行のグランドデザインを作成・実施する。	B	韓国、イギリス、オーストラリアの短期研修は若干の見直し求められるが、海外交流プログラムとして定着した。グローバルキャリアプログラムについては計画の策定作業が50%程度までに達してきた。Aに近づけるように動き始めた。	国際部

評価規準(達成程度%)

A: 90%以上 目標を超えた。 B: 90~60% ほぼ目標に届いた程度。 C: 60~40% 目標に近づきつつある程度。
D: 40~20% 幾分進展がみられる程度。 D: 20%未満 滞っている。

2 中高一貫教育の強みを全面に押しだし、6年間の学習を系統的に推進する。				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当
基礎学力の定着・向上を図り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。 (中1から高3までの各到達目標を明確にする。)	「資質・能力」の三つの柱(三要素)に基づく評価規準を策定、次年度シラバスを年度内に完成させる。	D	毎年改善されたものが作成されてきた。さらに授業改善、評価について研修を重ね、シラバスのありかたを確立させたい。	教務部
	標準単位数に応じた年間標準授業時数の確保へむけて年間行事の精選を行う。	B	行事関係はほぼできあがっている。気象災害等による休校の処置に苦慮している。	
	放課後の学習時間の確保、学習場所の整備等に関する具体的な方策を構築する。	D	検討を進めているが、結論には至っていない。放課後の自習の在り方を最優先で協議を進めていきたい。	生徒部
旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	個人面談・三者懇談・LHR等を通じて生徒個々の学習意欲を高めるとともに、学力向上にむけた具体的な学習方法について指導助言する。	C	大学出張生講義やオープンキャンパスツアーへの参加者は増加、生徒の進路意識の涵養については着実に成果を挙げている。加えて学習意欲の向上のために、各担任、教科担当が個人面談で粘り強く指導を継続している。	進路指導部

3 高大接続改革を先取りした校内体制の構築を図る。				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。	ICT機器を活用した授業実践のための研修会を組織的・計画的に行う。	B	Classiの使い方職員会議で周知し、様々な機能について研修した。ロイロノートの研修会を3/16に実施予定である。	教務部
	授業改善研修を組織的・計画的に行う。	B	昨年度の授業アンケートから授業改善シート作成・提出。6月・9月定例の授業見学に向け、各教科内で3~4人のチームで、授業デザイン作成から振り返りまで研修を行った。2/16に産能大フォーラムが本校で開催され、他校との情報交換の機会になった。	
	ICT機器を利用した学習支援・生徒把握を推進する。	B	プロジェクターで教材を提示、理解の促進に役立てている。高校3年生むけビデオ教材の案内、希望者に提供した。ロイロノートやClassi活用。	
	広く校外にも参加を呼びかけ、公開研究授業を行う。	D	平成31年度2月実施に向け準備を進めた。	
新学習指導要領に対応した教育課程を作成する。	平成31年度入学生の教育課程表を作成する。	D	34年度からの新課程を31年度先行実施を目標に4月から準備開始、時期尚早で32年度以降に持ち越される結果となった。検討してきた過程での課題をふまえ、今後も関係各位と連携して、良い形で実施できるよう準備していきたい。	

<p>地域に愛される学校となるべく、生徒会が中心となり城北モラルを向上させる。</p>	<p>中学生、高校生が協力して地域に貢献できるボランティア活動を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>中・高生徒会執行部を中心に挨拶運動や地域清掃をはじめボランティア活動を実施した。来年度は今年度以上に生徒が中心となり活動を行いたい。</p>	<p>生徒部</p>
<p>学校行事だけでなく日常的な教育活動について、学校の持つ魅力を積極的に校外に発信することにより、受験者数の確保に繋がる情宣活動を推進する。</p>	<p>ホームページの更新頻度を週5回以上として、教育活動を校外に発信する。</p>	<p>C</p>	<p>各行事や教育活動、プリント等配布物の度に更新したが、週5回を超えるものとはならなかった。</p>	<p>総務部</p>
<p>定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外へも行う。</p>	<p>定期的に広報誌を発行し、教育活動の広報を校外へも行う。</p>	<p>B</p>	<p>広報誌の発行を年3～4回実施し、塾・中学校へ案内できた。小学生とその保護者へは塾経由のみのため幅広い広報チャネル開発が課題である。</p>	<p>入試広報部</p>

様式2 平成30年度 「教育経営計画」 実績（最終評価）

1 グローバル・マインドを育み、世界の動向や日本の現状を客観的に観察し、課題解決に向けて意欲的に取り組む生徒を育成する。							
達成目標	評価指標			29年度	30年度		担当
				実績値	目標値	実績値 (最終)	
世界の動きに興味・関心を向けるとともに、積極的に特別活動に参加する。	海外短期研修の応募者数	オーストラリア	41人	40人	22人	国際部	
		イギリス	18人	25人	19人		
		韓国	13人	なし	12人		
		インドネシア	20人	30人	20人		
	インターナショナルスクールとの交流		2回	3回	1回		
	ゲストスピーカー講演会	中2Discovery	5回	5回	5回		
		全学年	0回	1回	1回		
	国際関係LHR(中1～中3)		0回	4回	2回		
	NEWSLETTER(情報雑誌)発行		3回	4回	4回		
NEWSLETTER編集に関わる生徒数		17人	20人	23人			
ホスト・ファミリーの受入や、異文化理解を促進し、積極的に体感できる機会に参加する。	受入プログラム		113家族	50家族	69家族		
	インターナショナルフレンドシップキャンプ		50人	50人	32人		
	外部のイベント(スピーチコンテスト等)		18人	25人	33人		
	Year 留学・Term 留学		0人	0人	2人		
	インターナショナルクラブ加入者数(短期研修参加者含む)		56人	80人	92人		
	韓国語講座参加者数		18人	25人	(25) 8人		

2 中高一貫教育の強みを整理するなかで、中学1年生から高校3年生まで系統性を持たせた指導を展開する。							
達成目標	評価指標			29年度	30年度		担当
				実績値	目標値	実績値	
生徒が、自主的・積極的に運営参加する学校づくりを目指すとともに、城北健男児の自覚を持ち、他者を思いやる心を育てる。	地域のボランティア活動への参加		2回	2回	2回	生徒部	
	登下校時マナーアップへの呼びかけ		4回	3回	3回		
	先進的な他校生徒会執行部との交流		0回	1回	2回		
	中高合同で行う校内行事の検討		0回	1回	2回		
	高校生による中学生への意識啓発活動		1回	1回	0回		
系統立てた学びによる、学習意欲等の伸び及び年間授業時数	生徒の授業満足度		80%	80%	81%	教務部	
	シラバス作成の進捗管理		進捗 50%	進捗 100%	進捗50%		
	年間授業時数(1単位当たり)		+0時間	+1時間	+ 時間		
基礎学力の定着・向上を図	家庭学習時間(トータルと	中1	平日	1.8	2.0	1.6	教務部

り、積極的に自己実現を図る生徒を育成する。	して)		休日	3.3	3.0	2.8	
		中2	平日	1.6	2.0	1.4	
			休日	1.9	3.0	2.5	
		中3	平日	0.9	2.0	1.1	
			休日	1.4	3.0	1.7	
		高1	平日	2.0	2.0	2.0	
			休日	3.0	3.0	2.5	
		高2	平日	2.5	3.0	2.5	
			休日	3.5	4.0	4.0	
		高3	平日	5.4	5.0	5.8	
休日	6.8		7.0	9.2			
GTEC の目標点 (実績値は改訂前の総点による。) アドバンス：960 満点 (対象：高2・高3) ベーシック：810 満点 (対象：中3・高1) コア：630 満点 (対象：中1・中2)	高2 GTEC アドバンス	スコア 520 以上 今年度全国平均 448	44 人	70 人	61 人	国際部	
	高1 GTEC ベーシック	スコア 520 以上 今年度全国平均 415	38 人	50 人	38 人		
	中3 GTEC ベーシック	スコア 440 以上 今年度全国平均 400	-	70 人	51 人		
	中2 GTEC コア	スコア 380 以上 今年度全国平均 324	-	80 人	37 人		
進研模試目標偏差値	進研模試 (高1・1月)	偏差値 70 以上	19 人	20 人	8 人	進路指導部	
		偏差値 60 以上	70 人	70 人	48 人		
	進研模試 (高2・1月)	偏差値 70 以上	7 人	20 人	12 人		
		偏差値 60 以上	36 人	70 人	50 人		
旧帝大等の難関大10名、広島大20名、早慶上理30名、関関同立100名以上が合格する。	大学合格者数	旧帝大クラス	7 人	8 人	8 人	進路指導部	
		広大	12 人	15 人	8 人		
		早慶上理	19 人	20 人	17 人		
		関関同立	122 人	100 人	69 人		
城北の魅力を積極的に情報発信する。	受験者層への興味・関心の喚起 (受験者数)	6年制コース	556 人	600 人	551 人	入試広報部	
		3年制コース	85 人	100 人	77 人		

平成30年度学校関係者評価シート（最終評価）協議結果

平成31年3月8日

学校名	広島城北中・高等学校	校長名	岩本光彦	全日制課程
-----	------------	-----	------	-------

評価項目	評価	参考評価項目等
目標、指標、計画の妥当性	A	<input type="checkbox"/> 課題を踏まえた適切な目標等の設定である。 <input type="checkbox"/> 目標等の設定には課題の分析が今少し弱い。 <input type="checkbox"/> 課題の分析が不十分であり妥当性に欠ける。 <input type="checkbox"/> 課題と対応の指標等が大きくかけ離れている。
計画の進捗状況に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 計画に基づいた取組が適切に進められている。 <input type="checkbox"/> 計画は進めているが今少し対応が遅い。 <input type="checkbox"/> 計画の種類によって進捗にばらつきがある。 <input type="checkbox"/> 計画はあるが極めて対応が遅く効果的でない。
目標達成の取組に係る評価	B	<input type="checkbox"/> 目標達成に向けて確実に対応が進んでいる。 <input type="checkbox"/> 目標達成の取組に今少し具体的対応が欲しい。 <input type="checkbox"/> 目標達成の指標は分掌でばらつきが見られる。 <input type="checkbox"/> 目標達成を設定しているが効果が見られない。
評価結果の分析に係る評価	A	<input type="checkbox"/> 自己評価としての的確な分析結果である。 <input type="checkbox"/> 自己評価としてやや抽象的な分析が見られる。 <input type="checkbox"/> 自己評価はするものの一方的な分析である。 <input type="checkbox"/> 全く妥当性を欠いた自己評価と分析である。
今後の改善方策の妥当性	A	<input type="checkbox"/> 改善方策が具体的であり大いに期待できる。 <input type="checkbox"/> 改善方策が分掌によってやや温度差がある。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的な対策が多く見られる。 <input type="checkbox"/> 改善方策として抽象的で妥当性を欠いている。
総合評価	B	<input type="checkbox"/> 教務、進路の「評価指標」で客観性が高まった。 <input type="checkbox"/> 客観性を高めるには今少し具体性が欲しい。 <input type="checkbox"/> 「評価指標」としては説得力に欠ける。 <input type="checkbox"/> 具体性、客観性を担保できる指標が欲しい。

（注）評価：「A適切」「Bほぼ適切」「Cやや適切さに欠ける」「D不適切」

